

# 六大無碍にして

## 常に瑜伽なり

弘法大師空海 『即身成仏義』より

新年、明けましておめでとうございませう。檀信徒の皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。旧年は新型コロナウイルスの蔓延により、息の詰まる日々を過ごされた方も多いかと存じます。それでも県内ではワクチン接種もかなり進み、行動制限緩和など生活が比較的的自由になってきたように感じます。二年続けて中止となりました高野山参拝旅行も、本年は皆様方と共に行くことが出来るのではないかと、私も期待しております。近頃は寒い日も続いております。体調にはくれぐれもお気を付けてお過ごしください。



### 傳燈館建設開始

当山住職より発願されました地域交流施設「傳燈館」の建設が、旧年十月よりいよいよ始まりました。建設にあたり、十月四日には護持会の本部役員様をお招きし、傳燈館の安寧を祈念して「地鎮祭」を執り行いました(左写真)。



地鎮祭の様子

また、十一月十三日には「上棟式」も執り行い、建設作業の安全を祈願を致しました。昔ながらの作法に則り、事前につきました紅白のお餅を地域の方々に投げ餅として投げました。当日は子供達も多く来ていただき、大変賑やかな式典を執り行うことが出来ました。(下写真)



## 厄除け護摩祈願大祭

本年も一月九・十日に、平福寺にて「厄除け護摩祈願大祭」を執り行う運びとなりました。そもそも厄除けとは、「九星気学」という占術に基づく風習です。人は皆その年の星の運勢を受けて産まれてきますが、その星は毎年順番に移り変わります。そして自身の持つて生まれた星と、今年の星の運勢の関係が悪い年が厄年となります。また、厄年という言葉には二つの意味があると言われ、一つは前述しました九星気学に基づく運勢の悪い年。そしてもう一つは新たな役目を担う「役年」という意味です。男性は四十二歳、女性は三十三歳が大厄とされ、これは人生において最も気が抜けない時期といわれます。こうした重要な時期に、心身ともに健やかでありたいという昔からの思いが「役年＝厄年」として、現代にも受け継がれているのです。

さて、当山の厄除け祈願大祭では、新型コロナウイルスへの対策として旧年より祈祷受付を遍照殿にて行う形式に変更しました（左写真）。本年も同様に遍照殿にて受付後、観音堂にて祈祷を受ける形式になります。「厄除け」は新年に行うことでその年の無事・幸せを願い、厄年であればその年の悪事災難を祓い、また善い年をさらに善くなるように祈念するものです。自他の喜び事を共に悦ぶことは神仏の御教えです。御家族はもちろん、御知人の方々へもお勧め下さり、お申し込みください。



厄除け祈願 受付の様子

## 今回のお言葉

今月号のお言葉は、真言宗の開祖であり、高野山を開山された弘法大師空海和尚のお言葉です。

お大師様は私達の生きているこの世界は六大【地・水・火・風・空・識（精神）】によって構成されていると説いています。また、無碍（むげ）とは何物にもとらわれない、という意味を持ち、瑜伽（ゆが）とは結び付くという意味を持ちます。これは即ち、

「私達の生きるこの世界のもはそれぞれ独立しているのではなく、互いに関わり合って存在している」と説いているのです。

昨年までの新型コロナウイルスの影響で、疎遠になってしまった方もいるかと存じます。人との繋がりは関わり合いの中で最も身近なものです。もし心当たりのある方がいましたら、この新年という機会に繋がりを確かめてみるのはいかがでしょうか。

## 年間行事

- 一月 厄除け祈願大祭
- 二月 旧正月
- 三月 春季彼岸会・涅槃会
- 四月 研修旅行
- (阿字の子会主催)
- 五月 春季例祭・大般若会
- 七月 高野山参拝旅行
- 八月 夏季例祭・大施餓鬼会
- 九月 秋季彼岸会
- 十二月 二年参り

## 墓地情報

安曇野市楡地区「アルプス自由墓苑」にて墓地区画を分譲中です。不明な点はご相談ください。

## ホームページ

下のQRコードよりサイトに移動できます。※周りの方に広めて頂けたら幸いです。

